

# 委員会調査(研修)報告書

NO.

平成 29年 7月 10日

胎内市議会議長

森 田 幸 衛 様

(報告者) (委員長) 丸山孝博

まちづくり常任委員会閉会中所管事務調査 について、  
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 平成 29年 7月 7日 至 平成 29年 7月 7日 泊 日 ( 日間)	調査・研修 場 所	海岸の浸食状況について 船3艇で海上から視察
調査・研修 事 項	海岸の浸食状況について 村松浜、中村浜、笹口浜、荒井浜、桃崎浜を海上から視察		
調査・研修 出席者(参加者)	委員・丸山孝博、渡辺秀敏、桐生清太郎、森田幸衛、薄田智、佐藤武志 天木義人、坂上清一、森本将司 副議長・高橋政実 地域整備田中課長、議会事務局佐藤局長 今井主任 13名		
相手方(対応者)	新潟県地域整備部治水課課長、課長補佐 2名		

## 調査の結果または概要

胎内市の海岸、約 14 キロメートルは、冬期間の荒波で浸食が激しく砂山の決壊や崩落、浸食対策工事で整備後の箇所でも陥没している状況で、場所によっては海岸線に平行している国道まで数メートルのところまで浸食していることから、海岸浸食対策が急がれている。

荒井浜・桃崎浜地区の海岸は、平成 12 年度に「白砂青松」の指定を受け、新潟県が治山事業（保安林）との連携を図り自然豊かな利用しやすい海岸づくりが進められている。

全体計画は、昭和 55 年度から平成 31 年度まで 49 億円、年間約 8 千万円の海岸浸食対策事業として、離岸堤 39 基の設置工事が行われている。

しかし、冬期間の浸食が激しく背後護岸が毎年被災を受けていることが確認できた。

また、村松浜・中村浜・笹口浜地区は、海水浴場などもあるが、浸食が激しく特に中村浜地区の海岸は、砂山が大きく崩壊している箇所が確認でき、ここは立ち入り禁止になっている状況である。

さらに、長い海岸線で浸食工事がおこなわれていないのが村松浜地区であり、「以前は 100 メートルあった砂浜が 20 メートルにまでなってしまった」と、どんどん砂浜が無くなっていくという悲惨な報告があった。離岸堤未整備地区の浸食は著しい状況であった。

いずれにしても、胎内市の海岸は年平均 2.5 メートルも砂浜が後退しており、想像を超える海岸浸食で深刻な状況である。

## 調査の所見・感想

荒井浜・桃崎浜地区の海岸浸食対策は、新潟県が実施しているが治山事業と海岸浸食対策事業で連携して工事が行われている。

毎年工事が進められているが、激しい浸食により工事が追い付かない印象を受けた。委員からは改良工事も含め、工事費の増額などの要望がだされた。

村松浜・中村浜・笹口浜地区の浸食で砂山の決壊が進んでいるにも関わらず、未整備区間が多く前浜は浸食が進み、危険個所が多々見受けられた。

この地区は、海水浴場やキス釣りの全国大会などがおこなわれる海岸でもあり、行楽客が賑わう観光地でもあるので、早急に対策工事・整備に着手し、できる限り浜部が回復でき、安心安全の海岸にする必要があることを強く感じた。